令和3年度　鎌ケ谷市事務事業評価表（事後）（標準評価表）

事務事業名	商工業振興に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	7	1	2	
政策	活力ある産業を育成します	担当課室	商工振興課			
施策	魅力ある商業の育成	担当課室長	青木　真也			

Ⅰ　改革・改善内容（＝事務事業をより良く実施するための方策）

①前回の評価で掲げた内容	○東武鎌ケ谷駅西口商店会が街路灯を3年計画でLED化する予定であり、街路灯を保有していて撤去する予定の無い2団体に対してLED化を働きかけていく。 ○新型コロナウイルス感染症の拡大により、各団体のイベントについては自粛が推奨される中、団体の運営に負担が生じないよう、時節をわきまえつつ柔軟な対応を行う。	③令和3年度に取組む改革・改善内容	新型コロナウイルス感染症の影響は大きく、商店会もニューノーマルの対応が急務となっている。地元での消費が見直されている昨今、近隣住民が安心して消費活動ができるような取り組みに対しては柔軟な対応を行う。
②①に基づく取組み結果	新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、多くのイベントは中止となってしまった。このような中、東武鎌ケ谷駅西口商店会及び鎌ヶ谷大仏商店会は、保有する商店会街路灯のLED化に着手した。		

Ⅱ　事務事業の目的・概要

①目的	対象	商工会、商店会連合会、市内12商工業振興団体	意図（対象をどうするのか）	補助金の交付を通じて商店会等の振興を図る。
②事務事業の概要		市内に存在する企業の大半を占める中小企業や経済活動を行う団体に対して、補助金の交付やイベントの共同事業などで支援を行う。		
③環境分析（事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など）		全庁的に補助金の見直しが行われた昭和63年に、商工会等の活性化及び育成のために当該補助金が創設された。ここ数年は、大型店やネット通販の台頭による売上の減少及び事業主の高齢化により、店舗の廃業などが相次いでおり、既存の商店会は厳しい立場に置かれており、令和2年度末で3団体（ドリームカード会、大仏南通り商店会、第一踏切商店会）が補助対象外となってしまった。このような中、市域には駅が多くあり、結果として市民の行動の選択肢も多く、非常時にも歩いていける場所に商店があることが商店会のメリットと言える。商店会は地域で守るということを改めてPRすることが必要である。また、平成31年3月に実施した総合基本計画の基礎調査によれば、地域が買物客を引きつける力を表す指数は0.68であり、1を下回っていることから、他の地域へ買物客が流出している状況である。		

Ⅲ　事務事業の成果やコストの状況

①令和2年度の事業の成果	商工会及び商店会の活性化・育成を図るために補助金の支出を行った。例年、実施していた産業フェスティバルは、新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり中止となってしまったため、商工会サマーセールと称し、ウォークラリー形式の販促活動を実施している。

②成果を表す指標		指標名称	平成30年度	令和元年度	令和2年度	単位	算定根拠
	i	補助金交付額	21,814	22,003	18,896	千円	業務取得
	ii						
	iii						

③事務事業のコスト	令和元年度決算	令和2年度決算	令和2年度決算（事業費）の主な内訳		令和3年度予算
事業費（千円）	22,511	19,286	金額（千円）	内容	21,882
国支出金（千円）		37	18,896	商工業振興補助金	
県支出金（千円）					
市債その他（千円）					
一般財源（千円）	22,511	19,249			21,882

Ⅳ　評価・検討

①課題（目的に対する現状など）	電気料金の上昇などにより、各商店会で保有する共同施設（街路灯）の維持管理が困難となっている。固定費の支払い増が、商店会運営の圧迫に繋がっている。また事業承継に併せて商店会組織の世代交代が必要である。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	「場所的支援」「人的支援」以外の支援について、補助金交付事務の中で検討し、より商工業振興団体の現状に則した支援を可能にする。					

Ⅴ　多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

		令和2年度事業費の状況（単位；千円）					
①令和2年度の計画		計画事業費	予算額			決算額	
②計画に対する事業実績			0	当初		0	R1からの繰越
③達成状況				R1⇒R2繰越			
④未完了・非着手の理由				補正			現年分
				流用・充当			
		令和3年度への繰越額（単位；千円）					

令和3年度　鎌ケ谷市事務事業評価表（事後）（標準評価表）

事務事業名	空き店舗活用事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	7	1	2	○
政策	活力ある産業を育成します	担当課室	商工振興課			
施策	魅力ある商業の育成	担当課室長	青木　真也			

Ⅰ　改革・改善内容（＝事務事業をより良く実施するための方策）

①前回の評価で掲げた内容	申請期間を拡大し、本補助金の活用増に繋げる。	③令和3年度に取組む改革・改善内容	前年度と同様に、本補助金の活用増を計る。また、地域で活動する事業実施主体との連携を検討し、地域の賑わいの創出を目指す。
②①に基づく取組み結果	申請期間を拡大したことで、前年度と比較して件数が増加した。		

Ⅱ　事務事業の目的・概要

①目的	対象	市内に出店しようとする者	意図（対象をどうするのか）	店舗数の増加による地域の活性化
②事務事業の概要		賑わいの創出を図るため、商店会の空き店舗を活用し、出店する人に対し、店舗改装費等の総額2分の1（上限100万円）を補助する。		
③環境分析（事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など）		市内商店会については、売上減少や後継者問題等により店舗の閉店が増加し、シャッター街化している商店会が少なくない。出店にあたっての相談があった場合、適切に相談に乗れるよう地域課題を把握する必要がある。		

Ⅲ　事務事業の成果やコストの状況

①令和2年度の事業の成果	3件の補助金交付決定をした。また、当該補助金で創業した店舗が、観光タウンミーティング事業において協力店となり、鎌ヶ谷高校と共同でレシピ開発を行い商品化を実現している。補助金で創業した店舗が地域貢献を果たすという形で地域に活性化に繋がっている。

②成果を表す指標		指標名称	平成30年度	令和元年度	令和2年度	単位	算定根拠
	i	補助金交付件数	5	1	3	件	業務取得
	ii						
	iii						

③事務事業のコスト	令和元年度決算	令和2年度決算	令和2年度決算（事業費）の主な内訳		令和3年度予算
			金額（千円）	内容	
事業費（千円）	1,000	2,539			3,000
国支出金（千円）			2,539	空き店舗活用補助	
県支出金（千円）					
市債その他（千円）					
一般財源（千円）	1,000	2,539			3,000

Ⅳ　評価・検討

①課題（目的に対する現状など）	依然として、市内には多くの空き店舗があり、空き店舗の解消に向け取り組んでいくほか、本事業が賑わいの創出に繋がっているか検証する必要がある。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	商店街の空き店舗を活用し、集客に役立つ施設及び店舗の開店など、賑わいの創出を図っていく必要があるため。					

Ⅴ　多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

		令和2年度事業費の状況（単位；千円）					
①令和2年度の計画	補助金	計画事業費	予算額			決算額	
②計画に対する事業実績	補助金を支出した。	5,000	3,000	当初	3,000	2,539	R1からの繰越
③達成状況	完了			R1⇒R2繰越			
④未完了・非着手の理由				補正			現年分　2,539
				流用・充当			
		令和3年度への繰越額（単位；千円）					

令和3年度　鎌ケ谷市事務事業評価表（事後）（標準評価表）

事務事業名	観光ビジョン推進事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	7	1	4	○
政策	活力ある産業を育成します	担当課室	商工振興課			
施策	魅力ある商業の育成	担当課室長	青木　真也			

Ⅰ　改革・改善内容（＝事務事業をより良く実施するための方策）

①前回の評価で掲げた内容	新型コロナウイルス感染症により、落ち込んだ観光産業や、市民の観光意識が回復できるよう「立ち直る力」を支援する仕組みづくりや、きっかけを提供する。	③令和3年度に取組む改革・改善内容	令和3年度は「観光振興に要する経費」に統合。なお次期観光ビジョン策定を見据え、鎌ケ谷らしい観光についての検討を開始する。
②①に基づく取組み結果	観光タウンミーティングを実施し、鎌ケ谷高校料理研究部と市内飲食店によるテイクアウトメニューの共同開発・販売を行うことで、落ち込んだ地域経済の活性化や観光意識の醸成を図った。		

Ⅱ　事務事業の目的・概要

①目的	対象	市民及び市内事業者	意図（対象をどうするのか）	事業を通して市民・市内事業者の郷土愛を育てる。
②事務事業の概要	鎌ケ谷市観光ビジョンに沿った観光振興策により、まちの活性化を図る。			
③環境分析（事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など）	新型コロナウイルス感染症の影響により、しばらくの間移動を伴うものが制限される状況が続くことが予想され、身の回りの日常生活に、より重きが置かれ状況が続くと考える。そのため、これまでの日常を充実させることにより、まちの魅力に直結するということを意識しつつ、令和3年度以降の観光施策に取り組む必要がある。			

Ⅲ　事務事業の成果やコストの状況

①令和2年度の事業の成果	観光タウンミーティングにて高校生が考案したテイクアウトメニューが実際に市内の飲食店で販売され、地域経済の活性化を後押しした。また、6か所の報道機関から本取組について取材を受け、地域の活動を広くPRすることができた。

②成果を表す指標

	指標名称	平成30年度	令和元年度	令和2年度	単位	算定根拠
i	高校生フォトコンテスト応募作品数	270	200	－	作品	業務取得
ii	北海道、沖縄県での観光イベント実施回数	2	2	－	回	業務取得
iii	連携団体数			4	団体	業務取得

③事務事業のコスト	令和元年度決算	令和2年度決算	令和2年度決算（事業費）の主な内訳		令和3年度予算
事業費（千円）	4,669	137	金額（千円）	内容	0
国支出金（千円）	2,088		65	観光タウンミーティング報償	
県支出金（千円）					
市債その他（千円）					
一般財源（千円）	2,581	137			

Ⅳ　評価・検討

①課題（目的に対する現状など）	新型コロナウイルス感染症の影響により、これまでのようなイベントによるPRが実施できない状況にある。					
②評価	ⅰ市関与の妥当性	2普通	ⅲ公平性	2普通	ⅴ総合評価	1終了
	ⅱ有効性	2普通	ⅳ効率性	2普通		
③上記評価の理由	「観光振興に要する経費（経常経費）」に統合したため。					

Ⅴ　多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

		令和2年度事業費の状況（単位；千円）					
①令和2年度の計画	北海道・沖縄観光イベント、インバウンド施策、観光タウンミーティング等	計画事業費	予算額			決算額	
②計画に対する事業実績	観光タウンミーティングの実施	5,018	176	当初	4,969	137	R1からの繰越
③達成状況	未完了			R1⇒R2繰越			
④未完了・非着手の理由	新型コロナウイルス感染症により			補正	−4,793		現年分　137
				流用・充当			
		令和3年度への繰越額（単位；千円）					